



70th

湘南ひらつか七夕まつり
70回記念誌

はじめに

平塚にとって七夕まつりは、市内最大のイベントというのみならず、長い年月をかけて育ててきた市民の宝でもあります。

市民、商店、団体、企業が一丸となって作り上げてきた「湘南ひらつか七夕まつり」は2022年、70回目の節目の開催を迎えることができました。

70回の節目に、これまでの歴史を振り返るとともに、この先の未来も七夕まつりが平塚市民の宝であり続けるようお願いを込めて湘南ひらつか七夕まつり70回記念誌を制作しました。





CONTENTS

- 3 ごあいさつ
- 4 七夕まつりのあゆみ
- 10 七夕飾り 作り手たちの思い
- 14 伝えたい伝統『七夕おどり』
- 18 年表・データベース



平塚市長
湘南ひらつか七夕まつり会長

落合 克宏

平塚市を代表する夏の風物詩「湘南ひらつか七夕まつり」が、第70回の節目を迎えたことを大変うれしく思います。戦後の復興まつりを起源とするこのまつりが、全国に名を馳せるまでに発展したのは、先人たちの強い心意気の賜物です。

新型コロナの感染拡大の影響で、3年ぶりに開催した第70回の七夕まつりは、感染防止対策で制限を設けた開催となりましたが、七夕飾りそのものを楽しむという原点に立ち返ることができました。一方、デジタル化の流れをくむ企画も登場するなど、七夕文化を絶やすまいと時代と共に進化し続ける市民の皆さまの熱い思いも感じられました。

これからも未来に向けて七夕まつりの魅力を幅広く発信すると共に、その素晴らしさを次世代につないでいきたいです。



平塚商工会議所会頭
平塚市商店街連合会会長
湘南ひらつか七夕まつり副会長

常盤 卓嗣

第70回湘南ひらつか七夕まつりが、市制90周年の節目に開催できましたことは大変嬉しく、関係各位に感謝申し上げます。

七夕まつりは、地元商店による戦災復興まつりの翌年に始まり、商工会議所が第6回まで主催し、商店街とともにまつりを盛り上げ、その後平塚市に移管し、全市のまつりとして現在に至っております。過去には、大型店問題や東日本大震災の影響で中止の危機、今回の新型コロナウイルス感染症拡大では2年の延期、その他様々な経済・社会情勢の中、伝統を守り継続にご尽力を賜りました大勢の方々に改めて敬意を表します。

これからも、日本を代表する七夕まつりとして伝統文化を継承し、誇れる財産として次の世代に受け継いでまいりたいと思います。



(一社)平塚市観光協会会長
湘南ひらつか七夕まつり実行委員長

福澤 正人

夏の訪れを告げる伝統ある湘南ひらつか七夕まつりは、新型コロナウイルス感染症により3年ぶりの開催となりました。第70回として平塚市制90周年の年に大勢の皆様を支えられコロナ対策を講じて開催できましたことに深く感謝を申し上げます。そして、戦災復興から70回という歴史を積み重ね、平塚市の発展とともに日本有数の七夕まつりに成長できたことに、先人達のご尽力に改めて敬意を表します。

顧みますと東日本大震災直後の開催が危ぶまれた年より、実行委員会組織の市民主導となり、大勢の市民・企業・団体に支えられ、更なる全市のまつりに成長してまいりました。これからも、誇れる街の財産として将来に向け七夕まつりの新たな一歩を進めてまいります。



平塚市議会議長
湘南ひらつか七夕まつり実行副委員長

数田 俊樹

コロナ禍を乗り越え、70回を迎えられましたこと、私も大変嬉しい限りです。実行委員会各位、中心市街地商店街の皆様、ボランティアの皆様のご尽力に、心より敬意を表します。近年、市民参加型の飾りが掲出され、メイン会場だけでなく、市内各地にも彩りを添えるようになりました。イベントでは、平塚商工会議所青年部、(公社)平塚青年会議所、海活プロジェクトさんの新たな発想と実行力で、メタバース空間を活用したバーチャル七夕やプロジェクションマッピングなどの新事業も創出されました。復興まつりとして産声をあげた七夕まつりが、今後も地域の文化として発展し、市民の皆さまから愛されるまつりとなることを心から願い、私も想いをもった一人として、皆さんと共に汗をかいて参ります。共に頑張りましょう。



01

七夕まつりのあゆみ

1945年7月16日、終戦を間近に控えたこの日、空襲により平塚市域の約70%は焦土と化しました。「復興五ヶ年計画」の最終年、復興の目処がたった1950年7月5日から7日、市をあげて「復興まつり」が開催されました。後の、「湘南ひらつか七夕まつり」誕生の瞬間です。



1950年に開催された「復興まつり」



第1回写真コンクール特選（第3回七夕まつり）

七夕まつり誕生秘話 戦災復興と市の発展を願って

焦土と化した市街地を立て直そうと開催された「復興まつり」が、なぜ現在の
ような「七夕まつり」となったのでしょうか。平塚の「七夕まつり」創設者の
一人で、平塚商工会議所副会頭も務めた宮代長次さん（1910-95年）がその鍵
を握っています。

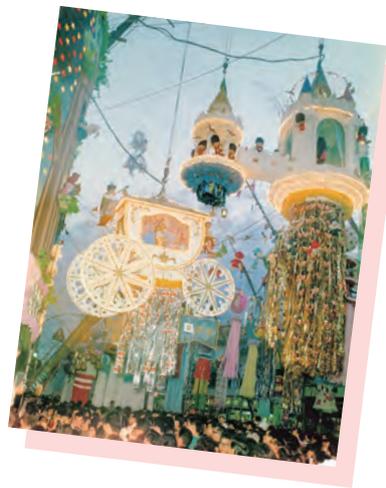
1910年、馬入村で生まれた宮代長次さんは1928年から10年ほど国鉄に勤務。
仙台に赴任中に知ったのが「仙台七夕まつり」でした。頭上を埋め尽くす豪華
絢爛な飾りとそれを見ようと押し寄せ人波に圧倒されたといいます。

日中戦争、太平洋戦争に出征し、終戦後に地元・平塚に戻ってきた宮代さ
んは建設会社を起業します。平塚商工会議所副会頭を務めるなど、徐々に再
生していく平塚のまちづくりに深く関わっていきました。

「復興まつり」の行末を相談されたのもこの頃。平塚商工会議所初代会頭で、
当時平塚市長だった柿澤篤太郎さんから「いつまでも復興まつりというわけに
もいかない。何か違うまつりの案はないだろうか」と相談を受けたそうです。
そこで宮代さんの頭をよぎったのが、豪華絢爛な飾りで来場者を賑わせていた
「仙台七夕まつり」でした。

「竹飾りをきれいに飾れば、お客さんは来てくれる」。仙台をお手本に、手探
りで平塚の「七夕まつり」を作っていく中、宮代さんは繰り返し言っていたそ
うです。子どもからお年寄りまで、まつり期間中ならいつでも飾りを見ること
ができ、商店街の宣伝にもなるまつりを目指していたといいます。七夕まつり
は、戦禍を乗り越えた市民が新しい暮らしをつむいでいくための希望や、これ
からの平塚をつくっていく子どもたちに夢を与えるためのまつりでした。

70回の歴史を重ねた今、七夕という希望の灯をともした宮代さんの思いは、
「まつりの顔」となった飾りや、まつりを盛り上げようと奔走する市民に受け継
がれているのです。



平塚はかつて「商都」と呼ばれ、県内外から
買い物客が訪れていました。来訪者へのPR
という側面から、飾りは豪華になっていきま
した。

1980年の様子



市民参加型へのシフト 平塚市の誇る一大イベントへ



商都・平塚の一大イベントとあって、七夕まつりはあっという間に神奈川県下でも最大規模のまつりとなり、右肩上がりでも成長していきました。

順調に大きく、盛大になっていった七夕まつりは平成初期、1990年代に来場者のピークを迎えました。1993年の43回には現在の「湘南ひらつか七夕まつり」へと名称を変え、5日間の開催で実に361万人あまりの来場がありました。

しかし、バブル崩壊後の景気の低迷や大型商業施設の進出により、七夕まつりの主な担い手であった商店街での七夕飾りの掲出は減少。2000年の50回を節目に七夕飾りの掲出を取りやめる店舗が相次ぎました。その流れを食い止めるため「湘南七夕の会」が主催者である平塚市と連携し、第51回からは公募による市民飾りが掲出されるようになります。また、市内の子ども会などが制作した子ども飾りや、各地域の団体の参加によって、「商店街のまつり」から「平塚市のまつり」へと徐々にシフトしていきました。

また、違法な道路への出店やごみ問題、交通規制による支障、来場者による迷惑行為など、華々しいまつりの陰にはさまざまな問題が山積みとなっていました。運営側も手をこまねているだけではなく、毎年さまざまなルール制定や規制などを設けるとともに、2017年にはマナーアップ委員会を設置。安心・安全なまつりの開催を目指していきました。

七夕まつりの華でもある七夕飾りの減少、それを食い止めようとする市民活動、より安心して多くの人を楽しめるまつりであるためにはどうすればいいか、試行錯誤が続きます。

市民が飾りを作る（写真中段）ようになり、子ども飾りが掲出（写真下段）されるとともに、織り姫が市内を巡回（写真上段）するなど、地域全体のまつりに変わっていきました。





天の河越えて届けよこの願い
燃やせ不屈の東北魂

被災地から届いた短冊

七夕まつりのあり方を大きく変えた 東日本大震災とコロナ禍

Be Active 平塚 7/9(Sat)・7/10(Sun)
第1回湘南いっしょに七夕まつり
～ご当地グルメによる震災復興チャリティーイベント～
・箱根 厚木 富士宮焼きそば
・平塚しらすボール 厚木シロコロボール
・三崎とろまん ちがさき漬焼きそば
チャリティーイベントも催された

2000年以降、まつりの盛り上がり維持しつつ、よりクリーンなイベントを目指してきた七夕まつりですが、2011年に大きな転機を迎えます。

2011年3月11日、日本列島を未曾有の大災害が襲います。東日本大震災は日本全国に大きな爪痕を残し、七夕まつりも開催そのものが危ぶまれるまでになりました。特に問題となったのが電力供給。豪華絢爛な夜景も魅力の平塚の七夕まつりでしたが、自粛ムードも相まって、単に贅を尽くしただけのまつりはその存在意義も問われることになりました。しかし、主催者を平塚市から実行委員会に変更するとともに、日程や時間、区域について規模を縮小し、安全確保を最優先に開催にこぎつけます。今なお続く7月上旬の金曜日～日曜日という会期はこの震災の年がはじまりでした。

実行委員会方式にシフトし、名実ともに市民のまつりとして歩んできた七夕まつりを、またも悲劇が襲います。2020年に発生した新型コロナウイルス感染症は、ついに七夕まつりを史上初の中止へと追い込みました。それも1年のみならず2年連続の開催中止でした。

これまでの70回の歴史で、開催が危ぶまれたことがなかったわけではありません。1973年には駅ビル建設問題から発生した種々のいきさつは、市にまつりの中止を決断させ、平塚商工会議所が開催を肩代わりしたこともありました。

しかし、何かしらの方法で開催を続けてきた七夕まつりも、世界中を巻き込んだ新型コロナウイルスの前には無力でした。そもそも七夕まつりは、多くの人に来てもらうことをある種のステータスとしていたまつりでした。商店街のまつりであればこそ、活気や賑わいを呼び込むために飾りは競うように大きく、豪華になっていき、それを楽しみに多くの人が集まったのも事実です。しかし、人が集まること自体の自粛を求められたことで、七夕まつりが大切にしていたある種のアイデンティティが揺らぐ事態にすなりました。



ここ20年は、まつりの歴史の中でも社会情勢の影響を特に大きく受けた期間でした。それでも、市民への七夕の思いは根強いものがありました。



2021年、紅谷町まちかど広場の様子



2020年に行われた「エア七夕」



2021年、県内の商業施設に飾りを掲出

七夕まつりを未来へつなぐ 新しい価値観



2022年のまつりではデジタルが活用された



70回の節目を前に足踏みを強いられた七夕まつりでしたが、市民の七夕まつりへの想いをより一層強くもさせました。実行委員会が開催を中止する一方で、有志の団体や組織が、代替事業を次々に打ち出しました。

2020年、七夕まつりのメインストリートでもある湘南スターモール商店街のアーケードには、「(一社)七夕飾り空いっぱいプロジェクト」の手によって小型の七夕飾りが並びました。また、「平塚まちなか活性化隊」は、市民の願いごと短冊を集め、その短冊でモニュメントを作る「星に願いをプロジェクト」を行いました。地域のメディアもタグを組み、主にインターネット上でさまざまな七夕まつり関連イベントを行う「#エア七夕平塚」を開催しました。

続く2021年、この動きはさらに拡大し、子ども飾りの掲出、七夕飾りミュージアム、SNS七夕フォトコンテストなどさまざまな催しが翌年以降の七夕まつり開催の機運を盛り上げました。

そして2022年、湘南ひらつか七夕まつりが3年ぶりに開催されました。市制施行90周年の節目とも重なった第70回開催は、露店出店の中止、県外からの来場の自粛要請、終了時刻の繰り上げなど、安心・安全に最大限配慮した形になりました。それでも感染症対策を徹底しつつ、湘南スターモールの大型飾りは81本が掲出、織り姫披露・七夕おどりパレードも行われました。さらに平塚商工会議所青年部によるVR七夕、平塚青年会議所によるプロジェクションマッピングなど、コロナ禍がなければ生まれなかったかもしれない新しい七夕まつりのスタイルが、続々と登場しました。

まつりが中止になったことで、まつりの大切さを再確認することにもなりました。さまざまな施策を通して、七夕を感じられる環境づくりが進みました。





メタバースに七夕飾りが登場

中止期間中に制作されたおどりのムービー



未来の七夕はどんなまつりに？ 進むデジタル化とアナログへの思い

新型コロナウイルスの感染拡大を乗り越え、70回の節目の開催を迎えた七夕まつりは、この先どうなっていくのでしょうか？

2019年、湘南ひらつか七夕まつり実行委員会はまつりを安心・安全に開催するための運営指針を明文化します。平塚市の人口をはるかに上回るほどの集客があるまつりは、時代に即して柔軟に変化してきましたが、節度のない行動などのトラブルが度々問題となっていました。誰もが楽しめるまつりを長く続けるため、基本的なルールを設けたのです。

まつりの中身に目を向けると、デジタル技術の活用がますます進んでいきそうです。メタバース上に新たな会場が生まれ、そこでのまつりが盛り上がりを見せるかもしれません。現実には制作するのが難しいような複雑な飾りが登場したり、露店の商品が自宅に届いたり、バーチャルパフォーマーがステージに出演したり……交通問題や騒音問題、ゴミ問題とも無縁です。

では、私たちが暮らす現実世界での七夕まつりは取って代わられてしまうのでしょうか。

冒頭で触れたとおり、まつりは戦災からの復興を目指した先人の思いの結晶でもありました。かつての平塚は商都と呼ばれ、商人たちの存在が街を形作っていたとも言えます。多くの人が集まることで、まつりの盛り上がり測る1つの尺度であることは簡単には変わらないはず。「平塚商人の心意気」はこの先も失われることはないでしょう。

今までのまつりと、新しい価値観のもとで生まれた新たなまつり。その2つが車の両輪のように同じ方向を向いて回り続けることで、七夕まつりはもっと素敵な、平塚が全国に誇るすばらしいイベントであり続けられるのではないでしょうか。



時代とともに、まつりのあり方、楽しみ方も変わりつつあります。来年の七夕まつりはどんなまつりになるのでしょうか。



02 七夕飾り 作り手たちの思い

立ち並ぶ露店やさまざまなイベント、七夕まつりにはたくさんの楽しみがありますが、何と云っても主役は豪華絢爛な七夕飾りではないでしょうか。メインストリートには10mを超える大型の飾りがいくつも掲出されます。そんな飾りを作る、制作者の思いに迫ります。

標準的な
七夕飾りの構造



平塚の飾りの特長 全国に誇る夜景も



大森さんがかつて手がけた七夕飾り。基本の構造をベースに細部にまでこだわり抜いた装飾が施されている。

七夕まつりの数だけ七夕飾りあり。平塚の飾りにも、平塚ならではの特色があります。何かと比べられがちな仙台の七夕飾りとは、似ているようで大きな違いが2つ。1つは電飾を用いて夜景に対応していること。もう1つは雨対策としてビニール製の吹き流しを使っていることです。

七夕飾りは大きく、「くす玉」「行灯」「吹き流し」といったパーツに分けられます。その上で、くす玉を星型にしたり、行灯を大きくして巨大な絵を描いたり、飾りが動くギミックが加えられたりと各掲出者がオリジナリティあふれる飾りを制作しています。

平塚の七夕まつりは、午前から夜まで行われますが、日が落ちるとそれぞれの飾りが色鮮やかにライトアップされます。これは仙台にはない特長で、昼間の飾りとはまた違う表情を見せてくれるのです。また、吹き流しをビニール製にすることで雨に対応しているのも特長です。7月上旬はまだ梅雨が明けきらないことも多く、雨対策は大きな課題でもあります。

当初は各商店が独自に飾りを作っていましたが、飾りの大型化に伴い、専門の業者が飾り作りを代行することが増えてきました。

有限会社大宣は、古くから飾り作りを行っている企業の1つです。日頃は広告業を営んでいますが、「2月ぐらいからはずっと七夕まつりの仕事」と代表の大森雄二さんは言います。「飾りを出すことで、近隣の市町から平塚に来て買い物をしてくれた。集客の1つの手段だったから、競い合うように大きい飾りを出すようになったね」と振り返ります。

今はそれも落ち着き、むしろ飾りが減少していく傾向にあ

ります。そこで2001年から市民の手作りの飾りを広く募集するようになりました。その中心的な役割を担っているのが「湘南七夕の会」です。根岸理裕さんは会の中心メンバーで、市民による飾り作りをサポートしていました。こちらも毎年2月ごろから材料の手配、ゴールデンウィーク明けから30団体以上の飾り作りを指導・監督しています。「本来は飾りを出した市民団体が次の市民団体を指導するような形にしたかった」のですが、飾りを作るのは大変な手間と時間がかかるため、後継者不足に頭を悩ませています。

大森さんも根岸さんも声をそろえるのが「飾りは点ではなく、線でなければならない」ということ。どこか1つの飾りが飛び抜けて豪華なのではなく、通り全体に満遍なく飾りが掲出されるのが大事だそうです。飾りにお金をかけられる商店が減った今、多くの人が努力して飾りがあふれるメインストリートを維持しようとしているのです。



大宣 代表取締役
大森雄二さん



湘南七夕の会
根岸理裕さん

湘南スターモール商店街に店を構え、創業100年を超える衣料品店の片野屋。創業社長の片野亀吉さんは七夕まつりを作り上げた中心人物の1人として、飾りにも人並み以上の思い入れがあったそうです。片野静民さんは50年以上にわたり飾り作りに取り組んできました。「昔から全部自分たちで手作りしています」という数少ない商店の1つです。

「まつりに来た人が飾りを見て喜んでくれるのが一番」と毎年特大の飾りを掲出していますが、多くの人が競い合って飾りを出していた1960年代～70年代の熱気は凄まじかったと言います。「飾りを見に来てくれれば、自分の店で買い物してもらえるからね。もう意地の張り合い」と笑います。「飾りコンクールで特選が取れないと『どうしてうちじゃないんだ!』って他店に乗り込んでいっちゃう店があるぐらい」だったそうです。

「昔の競い合って飾りを出していたところが1つ、また1つとやめていっちゃうのは寂しいね」とつぶやく片野さん。「時代は変わって、飾りを出せば儲かる時代でもないけれど出し続けるのは大事。若い人の中に、そういう思いがある人がでてきてほしいね」とこの先の七夕まつりへの想いを語っています。



片野屋
片野静民さん



商売人の意地を飾りに込める



戦前、地域の商工業の金融円滑化のために立ち上げられた平塚信用金庫。“ひらしん”の愛称で地域に愛され、毎年、世相を反映した豪華な飾りで来場者を楽しませています。尾上達也理事長は「実はちゃんと記録に残っているのは過去20年くらいです。その前も当然飾りは出していましたが、もう当たり前のことで細かい記録は残ってないんですよ」と笑います。

現在は、業者に制作を委託していますが、アイデアは職員みんなで出しあうそうです。「委託しているとはいえうちの名前で出しますからね。来場者の方に飾りを見て楽しんでもらうのが一番ですし、コンクールで特選に選んでもらえればそれはもううれしいです」という。飾りに限らず、七夕まつりにはさまざまな面で協力しており、七夕おどり千人パレードには毎年50人以上の職員が参加しています。尾上理事長も「曲を聞くと体が勝手に動き出す」ほどだそうです。

「七夕まつりは地域の元気さの象徴」と尾上理事長。飾りが減りゆく七夕まつりを憂慮しつつも「平塚といえば七夕まつりですから。意地といえばそうかもしれませんが、力を注ぎ続けたいと思っています」と力強く話してくれました。



平塚信用金庫
尾上達也 理事長

湘南七夕の会に指導を受け、毎年飾りを出し続けているのがブラジル人コミュニティ「スイングブラジル」です。もともとは20年以上前、飾り作りをコミュニティへの入り口にしようと始めたそうです。

庄司春江さんは「最初の何回かは自腹で飾りを出していた」と振り返ります。はじめて飾りを作った時は日系ブラジル人や仕事で平塚に住んでいる人など30人以上のメンバーが集まり、試行錯誤しながら飾りを作ったそうです。ただ、この団体も年々人が減っていくことに悩まされているそうです。「本当は次のリーダーにバトンタッチしたいですが、なかなかそういう人はいない」といいます。一方で、子どもたちの世代が独立して飾りを出すようにもなりました。「ブラジルW杯の年に子どもたちがやりたいって言い出したんです。世代継承がちょっとはできているのかな」と笑顔を見せます。

「飾りは人とのつながり」と庄司さん。「お友達がやっているからと参加するパターンが多いです。今の子どもたちが大人になるまで飾りを作り続けてくれれば、私は杖をつくような高齢者になっているだろうけど、「あのおばあさんが見に来てくれて、きれいなのができたねと言ってくれた」と喜んでくれれば、私もうれしいです」と未来に期待を寄せています。



スイングブラジル
庄司春江さん



市民がつくる新しい飾りの形



2015年、企業飾りの制作会社として始まったのが(一社)七夕飾り空いっぱいプロジェクトです。2014年、小林誠代表が商工会議所青年部に所属しながら七夕まつり実行委員会の特別掲出委員長として取り組んだ企業飾り誘致を、発展的に法人化させた団体です。「多くの地元企業にも関わってもらって、文化を継承してもらおう」という狙いで持続可能な飾り作りを模索し、2020年からは小型の飾りをアーケードに掲出するなど新しい取り組みも実施しました。転機となったのは2018年。岡山県出身の櫻井駿さんが「飾りを出したい」と突然市役所に電話をかけてきたそうです。櫻井さんの地元、倉敷市水島には平塚の七夕まつりを参考にした「水島港まつり」というイベントがあります。「地元でも飾りを出していて、そのルーツであった平塚のまつりにはずっと興味があって、思い切って電話しました」と櫻井さん。小林さんは「縁もゆかりもない人が飾りをあげたいなんて、とんでもない人が現れたと思いました」と笑いながら振り返ります。市役所から紹介される形で櫻井さんがメンバーに加わり、以来3年間はオリジナルの大型飾りも掲出しています。櫻井さんをはじめ、七夕飾りへの思いをつないでくれる人々がさまざまな活動をしています。



(一社)七夕飾り
空いっぱいプロジェクト
(右から)小林誠 代表理事、
櫻井駿さん、田中大輔 理事



03

伝えたい伝統『七夕おどり』

「見るより聞くより踊るもの〜」とえば、『七夕おどり』の一節。歌詞の通り、聞けば思わず体が動き出す……という人も多いであろうこの七夕おどりは誕生から半世紀以上が経ちました。改めて、おどりの誕生を振り返ります。

平塚市民の必修科目！ 七夕おどりを覚えよう！



今や七夕まつりのテーマソングとして、会場はもちろん、市内の夏まつりなどでもおなじみの『七夕おどり』。歌は聞いたことがあっても、踊っている人を見たことはあっても、ちゃんと踊れるかといわれると自信がない人もいるのではないのでしょうか。この機会におどりを覚えて、次回以降の七夕まつりをもっともっと楽しみましょう！

踊り方の前に、まずは楽曲について。平塚には『七夕おどり』（作詞：石本美由起・作曲：市川昭介・歌：都はるみ）以前にも神奈川全域で親しまれていた『神奈川おどり』や、平塚に

ゆかりの地名が多数登場する『平塚恋しや』というおどりがありました。しかしこれらは“3歩進んで2歩下がる”ような振り付けだったそうで、パレードで踊るには不向きでした。そこで生まれたのが『七夕おどり』です。当時の新聞記事（神奈川新聞1970年6月17日）によると、「阿波踊りに勝るものを」という市の意気込みでつくられた”そうで、「阿波への対抗意識からか、踊りも文句もやや似通っているが、それだけに名調子」と書かれています。振り付けは高瀬龍水で、当時のレコードには歌詞カードと一緒に踊り方の解説書も付いていました。

おどりはみんなで楽しく踊るもの 次世代にも引き継いで

平塚レクリエーション協会 阿部貴江子さん

「七夕おどり」誕生の当初は、コンクール形式で「七夕おどり」と「神奈川おどり」が踊られていたようです。厚木や茅ヶ崎、海老名、綾瀬など近隣の市町からも参加者がいたそうですが、あまりに参加希望者が多すぎて、結局パレード形式でみんなが踊る形になったとか。これが今も続く「七夕おどり千人パレード」のはじまりというわけです。

20年以上前は七夕まつり以外にも、各地域の夏まつりや、総合公園での大盆踊り大会など、踊る機会も多くて、



ぜひ
踊ってみてね

7人ぐらゐの普及員が市内各地でおどりを指導していました。その頃が一番盛んに踊られていたのではないのでしょうか。時代によって流行り廃りがあるのは当たり前ですが、今はダンスややさこいなど、踊りの種類自体も多様化しています。七夕おどりに触れる機会、実際に踊る機会が減ってしまったかもしれませんね。踊るときに一番大切なのはみんなで楽しく踊ること。曲が流れれば誰でも踊れる、こんな「七夕おどり」の伝統がずっと受け継がれていってほしいものです。

みんなで踊ろう!

七夕おどり

まつりの伝統の1つを残すために七夕おどりを練習しよう! 踊り方の教科書の決定版です!



湘南ひらつか織り姫 篠崎伽帆 (正面) 小林絵里菜 (横)

1

膝をグッと落とすとカッコいい!



SIDE

曲の始まりから8拍待機。膝の前から胸の前まで、パンパンパンと手を3回叩きながら右足から前へ。3歩目は両足をそろえる。

流れるように踊ろう!



2



SIDE

- ①右足を前へ出しながらか右腕を前へ伸ばし、左手は右腕の二の腕に添える。
- ②左足を前へ出し、左手を横に流す。
- ③右・左・右と早足で3歩進みながら①と②の動作を繰り返す。
- ④①~③を左右逆にして繰り返す。

3

決めポーズ! 笑顔も忘れずに!

- ①右足から3歩進みながら、両手を左下から体の前で1回転させる。
- ②4歩目の左足をあげ、右足のふくらはぎにつける。右手を斜め上にかざす。
- ③①、②を左右逆にして繰り返す。



SIDE

1に戻る

優雅に手をひらひらさせよう!

4



SIDE

- ①右足を踏み出しながらか両手をひたいの前へあげ、右手のひらは外向き、左手のひらは内向きにハの字にかざす。左足つま先で床をトンと打つ。
- ②左足を踏み出しながらか、ハの字をキープしたまま右手のひらは内向き、左手のひらは外向きに入れ替える。右足つま先で床をトンと打つ。
- ③①、②をもう一度繰り返す。

5



顔と視線は腕の動きと反対に!



SIDE

- ①右足から3歩進みながら両手のひらを向かい合わせ、両腕を左下から右下へ大きく円をかくように回す。4歩目の左足つま先で床をトンと打つ。
- ②①を左右逆にして繰り返す。

七夕おどり以外にも 七夕まつりを彩る名曲の数々

1970年、都はるみが歌ったことで大ヒットした『七夕おどり』（作詞：石本美由起・作曲：市川昭介）以外にも、時代ごとにさまざまな七夕や平塚にまつわる歌が生まれてきました。

第2回開催では早くも『なでしこ節（平塚七夕音頭）』が誕生。平塚市在住の作家・鹿島孝二が作詞、市の音楽界に多大な貢献をした鈴木徳一郎が作曲しました。全体的に七夕のことだけを歌った曲ではありませんが、歌詞の中に「今宵戻ればふる里は 星ににぎわう七夕祭り」の一節があります。翌年の第3回開催では西條八十作詞、上原げんと作曲の『平塚恋しや』『紅谷町音頭』が発表されました。歌詞に「紅谷町」「須賀の港」など、平塚の地名が多数登場します。

第10回開催では当時の市長で作家でもあった戸川貞雄が作詞を、『三百六十五歩のマーチ』などの名曲の数々を生み出した米山正夫が作曲を手がけ、島倉千代子が歌った『七夕音頭』が発表されました。



七夕おどりのレコード



七夕おどりに加え、七夕音頭なども収録されたオープンリール

そして第20回を記念して『七夕おどり』が誕生します。

都はるみも島倉千代子も、昭和を彩る希代の名歌手でした。こうしたスターばかりが平塚にまつわる歌を歌っているのは不思議に思うかもしれませんが、当時はこうしてレコード会社と連携して“郷土の歌”を作るのがブームとなっていた時期でもありました。日本コロムビアの資料では、全国各地に“音頭”だけで100曲以上が確認できます。

時代の流れもあるかもしれませんが、『七夕おどり』以降、七夕のシンボルとなるほどの楽曲は発表されていません。七夕飾りは毎年の世相を反映したり、豪華さを競うようになりたりと年を重ねるごとに工夫がほどこされ進化してきました。それに対し、七夕おどりは変わることなく守り続けられてきた伝統と言えるのではないのでしょうか。



湘南ひらつか織り姫
増尾彩佳



04

年表・データベース

これまでに70回の開催を重ねてきた湘南ひらつか七夕まつり。毎年のように多くの七夕飾りが掲出され、パレードやイベントなどが催されている裏ではまつりをもっと盛り上げるため、安心・安全を確保するため、時代や世相に合わせてさまざまな工夫が施されてきました。その歴史を振り返ります。

七夕まつり

第1回から 50回までのあゆみ

七夕まつりの始まりは、「戦災復興五ヶ年計画」もひと段落した1950年の「復興まつり」でした。ちょうど農閑期とも重なり多くの人出であったことから、平塚商工会議所、平塚市商店街連合会が中心となり、仙台の七夕まつりを範とした「第1回七夕まつり」へとつながっていきます。さまざまな問題を乗り越えながらも開催を続け、平塚を広く全国へ発信する市内最大のイベントに成長していきました。

1950年代



- 1950年 七夕まつりの礎となる「平塚復興まつり」が開催。
- 1951年 平塚復興まつりを下敷きに仙台七夕まつりからヒントを得た、「平塚七夕まつり」が誕生。人出は10万人ほど。
- 1955年 第5回ではじめて来場者が100万人を突破。「一戸一本飾り付け運動」を展開。造花は京花紙からビニールへ。「平塚七夕音頭」や「平塚恋しや」といった楽曲が作られたのもこのころ。

1960年代

- 1963年 第13回開催。来場者数が200万人を突破。市民センター大ホールでは七夕宝くじ抽選会のアトラクションが行われた。
- 1964年 オリンピック東京大会。多くの観光客を集め、パレードにはミスアメリカとミスロングビーチも参加した。
- 1966年 国道1号の渋滞解消のために竹飾り規制を実施。のちにバイパスが開通することで解消。
- 1967年 「七夕号」と名付けられた臨時電車42本が運行。

1970年代

- 1970年 来場者数は初の300万人超え。この年発表された「七夕おどり」は現在まで続く七夕のテーマソングと言える存在に。
- 1973年 駅ビルの建設問題から波及し市は七夕まつりの中止を決定。だが「伝統の火を消すな」と有志が立ち上がり開催にこぎつける。
- 1976年 松竹株式会社へ選考と派遣を依頼していた「ミス七夕」を公募に。現在の「織り姫セレクション」のベースとなる。
- 1979年 「七夕太鼓」を発表。現在の「相州平塚七夕太鼓保存会」へとつながる。

1970年ごろの平塚駅前。今も馴染みある「梅屋」の看板が見える。イベントには多数の人が詰めかける様子がわかる





ミス七夕、七夕の星ら。会場で笑顔を見せている



モノクロ写真だが、見慣れた七夕のロゴがうつる



青少年らの清掃ボランティア。80年ごろから盛んになっていった

1980年代

- 1980年 七夕まつり30回。七夕まつりのシンボルマークが制定される。
- 1982年 市制施行50周年。高山市と友好都市提携を、花巻市と天城湯ヶ島町（現在の伊豆市）と市民休養の郷の締結が行われた。
- 1986年 まつり期間中に国政選挙を実施。飾りを見るエリア、露店を楽しむエリア、おまつり広場などエリアが明確化。
- 1988年 平塚MNビルが完成し、観光客の回遊エリアがより大きくなった。

1990年代

- 1990年 それまでで最高の358万人の人出を記録。40回を記念して「出逢いの像」が駅北口に設置される。
- 1993年 現在まで続く「湘南ひらつか七夕まつり」に名称を変更。史上最高の361万人の来場者を記録。
- 1997年 19年ぶりに5日連続晴天。市内の幼稚園や保育園・小学校の子どもが参加した市民参加の飾りが多く登場した。
- 1999年 市民ボランティア団体による飾りの掲出やイベントが多数行われ、市民参加型七夕まつりの第一歩となった。





317万人来場



第51回 2001年7月5日(木)~9日(月)

全日好天に恵まれ、計画されていた催し物は全て予定通り開催。「アニバーサリー協賛竹飾り」や「市民協賛竹飾り」などが行われ、前年を上回る飾りが掲出された。大リーグに挑戦したイチロー選手の飾りなどが人気に。



315万人来場



第52回 2002年7月4日(木)~8日(月)

この年も全日好天。子ども会による「子ども飾り」がおまつり広場(現在の市民プラザ交差点西側)に掲出された。FIFAワールドカップ日韓大会が開催されたこともあり、ベルマーレ平塚(当時)出身の中田英寿選手などの飾りなどが掲出された。



286万人来場



第53回 2003年7月3日(木)~7日(月)

初日と最終日は雨に見舞われ、7年ぶりに300万人を割る人出となった。催し物のうち、「おどりパレード」は中止に。それでも「市民協賛竹飾り」や「子ども飾り」が積極的に掲出されたため、飾りの掲出本数は前年並みで、大いにぎわった。



307万人来場



第54回 2004年7月1日(木)~5日(月)

国政選挙の影響で約30年ぶりに七夕当日である7日を含まない日程となったが、300万人を超える人がまつりに訪れた。飾りの掲出本数も前年並みで、アテネオリンピックで活躍が期待された選手を応援する飾りが多数掲出された。



275万人来場



第55回
2005年7月6日(水)~10日(日)

期間中、不安定な天候だったが主な催し物は予定通り開催された。交通規制開始時刻の変更や消灯時間の繰り上げなど、より安全で安心して楽しめるまつりの開催を模索した。子ども飾りはこの年開園した紅谷町まちかど広場に掲出。



270万人来場



第56回
2006年7月6日(木)~9日(日)

開催期間が4日間に変更に。来場者の減少が予想されたが、前年並みの来場者がまつりを楽しんだ。市民団体などの活動の場として、見附台広場(当時)に第2ステージを開設。市民ボランティアが清掃や観光案内などで活躍した。



280万人来場



第57回
2007年7月5日(木)~8日(日)

比較的天候に恵まれ予定していたイベントは全て開催された。見附台広場でのイベントや出店も増え、多くの人でにぎわった。メジャーリーグやハンカチ王子ことプロ野球選手の斎藤佑樹氏の飾りなどが人気を集めた。



240万人来場



第58回
2008年7月4日(金)~7日(日)

この年に開催された洞爺湖サミットと日程が重複したことからイベントを縮小。ステージが2日間の運営となるなどした。新潟県中越沖地震から1年が経過したことから新潟県柏崎市を中心に激励短冊や七夕飾りを贈った。



230万人来場



第59回

2009年7月2日(木)～5日(日)

この年から開催期間を7月の第一木曜日からの4日間に固定。7日を含まない開催も多くなる。2008年のリーマンショックの影響から飾りの掲出本数が減ったが、市民団体による飾りが多数掲出された。最終日の早朝には暴力団団士の抗争による死者を出した。



230万人来場



第60回

2010年7月1日(木)～4日(日)

60回目の記念開催。飾りの掲出基準が緩和され、名称も「七夕飾り」に統一した。平塚青年会議所と平塚商工会議所青年部の合同企画で「全国七夕サミット2010in湘南ひらつか」を開催。記念イベントも多数行われた。



120万人来場



第61回

2011年7月8日(金)～10日(日)

同年3月11日に発生した東日本大震災による影響で、一時は開催が危ぶまれる事態に。主催者を市から実行委員会に移すとともに、日程・時間・区域等について大幅に規模を縮小して開催にこぎつけた。イベントや飾りに、復興への願いを込めたまつりとなった。



160万人来場



第62回

2012年7月6日(金)～8日(日)

市制施行80周年を迎え、七夕まつりの起源である「戦災復興への商店主の心意気」を「東日本大震災と低迷する地域経済への市民の思い」に昇華させ新たな市民まつりの第一歩として開催。「RESTART!」をテーマに掲げ、夜景や千人パレードなどを復活させた。



第63回 2013年7月5日(金)～7日(日)

織り姫セレクションでは市民参加を促進すべくインターネット投票を初実施。飾りの掲出本数が減少していく中「七夕飾り掲出促進対策委員会」を設立。さまざまな取り組みの成果もあって、湘南スターモールの飾りは83本となり11年ぶりに増加に転じた。



第64回 2014年7月4日(金)～6日(日)

オープンカーパレードが4年ぶりに再開。パレードを実施しなかった過去3代の織り姫を迎え盛大に行われた。湘南スターモールの飾りは84本と2年続けて増加。中心商店街全体では約540本の飾りが掲出された。



第65回 2015年7月3日(金)～5日(日)

天候に恵まれず、初日の「七夕おどり千人パレード」は中止に。それでも「織り姫と音楽隊パレード」には湘南ベルマーレの「キングベル1世」、平塚競輪場の「ウインディくん」らも参加。湘南スターモールの飾りの掲出本数は3年連続で増え、85本に。



第66回 2016年7月8日(金)～10日(日)

リオデジャネイロオリンピックの開催年ということもあり、多くの飾りに世相が反映された。見附台広場には恐竜ロボットが復活、前年の織り姫で女子プロレスラーでもある松本浩代選手が出場する平塚七タプロレスも行われた。



167万人来場



第67回 2017年7月7日(金)~9日(日)

湘南スターモールには89本の大型飾りが掲出され、近年最多に。市民飾りや、手作り企業飾りなど、市民参加型の飾りが半数近くを占める。東京五輪に向けホストタウンとなったリトアニアのダンスチームもパレードに参加。2年連続の七夕プロレスが行われた。



140万人来場



第68回 2018年7月6日(金)~8日(日)

初日の「七夕おどり千人パレード」は雨天のため中止に。2日目の「織り姫と音楽隊パレード」には海上自衛隊横須賀音楽隊が初めて参加した。見附台広場はすっかりイベント会場として定着。ライブパフォーマンスやリトアニア音楽学校の出演などが行われた。



155万人来場



第69回 2019年7月5日(金)~7日(日)

新元号「令和」や「ラグビーW杯」などをテーマに中心街で485本の飾りが掲出。見附台広場ではご当地アイドル、郷土芸能、HANDSIGNなどのステージや七夕プロレスがまつりに花を添えた。SDGsの推進も進められ、プラごみ削減などにチャレンジした。



80万人来場



第70回 2022年7月8日(金)~10日(日)

世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延で、2020年7月3日から5日に開催を予定されていた70回記念開催は七夕の歴史上初の中止に。2022年には市制施行90周年とも重なり、露店出店の中止や終了時刻の繰り上げなどで3年ぶりに復活開催した。



パレードで手を振る倍賞千恵子



松坂慶子



倍賞千恵子

七夕の華、湘南ひらつか織り姫の歴史

豪華絢爛な飾りや、優雅な七夕おどりに負けないほどの存在感でまつりの盛り上げに華を添えてくれるのが「湘南ひらつか織り姫」です。

その始まりは第1回開催時にイベントの一環として行われた「ミス平塚コンテスト」でした。その後、第5回開催時に「ミス七夕」に名称が変わります。さらにごくわずかな時期ですが「ミスター七夕」が選ばれたこともありました。その後、松竹などの芸能事務所の若手女優がミス七夕を務めるようになります。倍賞千恵子や松坂慶子といった、のちの名女優がミス七夕として市内パレードなどに参加したこともありました。第26回開催からは再び一般公募のミスコンテストが開催されるようになります。若手女優は「七夕の女王」と名前を変え、1993年の第43回開催までまつりの盛り上げに一役買っていました。

2004年、ミス七夕は「湘南ひらつか織り姫」に名前を変えます。毎年選ばれる3人の織り姫は、現在では七夕まつりに限らず、平塚市をはじめとする公的機関等が主催する行事などで市のイメージアップのために活躍しています。



織り姫コンテスト。一般の観覧者もいた



織り姫によるパレードは毎年多くの人が見物に来る



踊り動画のモデルになる織り姫

七夕まつり70回記念誌 協賛企業のみなさま

やさしくていねいなスクールです



Fukuzawa Motor School

湘南平塚モータースクール

デッカい一歩を、踏み出そう。
日産エルグランド
新登場！



ELGRAND

〒254-8610
神奈川県平塚市堤町2番1号
電話：0463(21)8001

日産車体株式会社
www.nissan-shatai.co.jp

祝 第70回 湘南ひらつか七夕まつり

 平塚商工会議所

平塚市松風町2-10

TEL 0463-22-2510(代)

お買物は地元のお店で

祝 第70回
湘南ひらつか七夕まつり
平塚市商店街連合会



七夕のまちの商店街

祝 第70回
湘南ひらつか七夕まつり

湘南スターモール商店街振興組合

紅谷パールロード商店街振興組合

代表理事 片山才市

湘南ひらつか駅前骨董市 毎月第4土曜日開催

市民の安全・安心を支える地元建設業

(一社) 平塚建設業協会

〒254-0051 平塚市豊原町21-36
TEL 0463-31-0687 FAX 0463-31-0743 URL <https://www.hiraken.org>

官公需適格組合(関東振中第1号)

神奈川県公安委員会認定818号

湘南地区警備業協同組合

平塚市代官町3-8 TEL 0463-22-5324 FAX 0463-22-2842

安心と信頼の



湘南農業協同組合

URL <https://www.jakanagawa.gr.jp/shonan/>

平塚市ビルメンテナンス業協同組合

代表理事 青山 隆

平塚市紅谷町14-24 松ビル3階
☎0463-23-6640

第70回湘南ひらつか七夕まつり 準特選(昼の部)受賞



一般社団法人
七夕飾り★空いっぱい
プロジェクト

LUSCA
ラスカ平塚

おかげさまで2023年、ラスカ平塚は50周年を迎えます。

平塚市宝町1-1 TEL. 0463-22-0234(代)
<https://www.lusca.co.jp/hiratsuka/>



MIZUHO

みずほ証券

平塚支店

〒254-0043 神奈川県平塚市紅谷町2-22 みずほ銀行平塚支店1階
TEL. 0463-21-6101

90
おかげさまで90周年

ともに歩みつづける

街のベストパートナー
ひらふ

TRIbank Hiratsuka
平塚信用金庫

それ、野村にきいてみよう。

野村証券

平塚支店
〒254-0811
神奈川県平塚市八重咲町3-3 JAビルかながわ2階
代表電話 0463-21-2111

七夕まつり第70回 おめでとうございます

YOKOHAMA

横浜ゴム(株)平塚製造所

地元の元気プロジェクト

みんなの健活プロジェクト

ひとに健康を、まちに元気を。

明治安田生命 平塚支社 神奈川県平塚市宮の前8-16 2F
TEL:0463-21-6111

FURUKAWA ELECTRIC GROUP

古河電工 古河電気工業株式会社 平塚事業所

〒254-0016
神奈川県平塚市東八幡5丁目1番9号

サンライフグループ

昭和八年創業

サカエヤ仏壇

平塚本店
〒254-0042 平塚市明石町25-1
☎0463-21-0150 年中無休

日産サティオ湘南 NEW SERENA

店舗営業時間 9:45~19:00
定休日 毎週火曜日(水曜不定休)
http://www.nissan-satio-shonan.co.jp

本社平塚店 平塚市宮松町3-23 ☎0463-24-8023

平塚田村店 平塚市田村5-24-22 ☎0463-55-2333

平塚旭店 平塚市根坂間210-1 ☎0463-34-1515

祝 第70回湘南ひらつか七夕まつり

第1回七夕コンクールで特選を受賞。学生賞 since 1920

毎年、70回にわたり竹飾りの掲出、協力をしています。

School SHOP トキワヤ 平塚紅谷町本店 ☎0463-21-0203

当時のトキワヤの飾りと銀座通りの様子

神奈川環境開発株式会社

Reduce・Reuse・Recycle

廃棄物収集 油槽ピット清掃 処理困難物 機密書類処分 産業廃棄物優良認定取得

平塚・藤沢・茅ヶ崎 0463-21-4792 厚木 046-294-5318 神奈川環境開発 検索

RENT ALL 平塚

RENT ALL 平塚 検索

<https://www.rent-hiratuka.co.jp> レントオール平塚 検索

KURIDEN 株式会社 栗原電設

代表取締役 栗原博史

〒254-0013 神奈川県平塚市田村一丁目15番10号
TEL:0463-55-9343 FAX:0463-54-8483 E-mail:kuriden@jeans.ocn.ne.jp



TSUTSUMI

土木・とび・土工工事業



有限会社
丸岡士健

八千代町4-11 ☎0463・21・1907

査定のプロがいる 高価買取専門店

買取 **大黒屋**
平塚北口店

平塚北口 目の前
都まんじゅうさん2階で営業中♪
なんでも買取!! お売りにください!

湘南ひらつか
七夕まつり
70回目おめでとう!

家族介護の
株式会社メディカルライフケア

祝
湘南ひらつか七夕まつり
第70回記念

伝えたい事を


mid.
伝えたい所へ

🔍 チラシ ポスティング 平塚

KAIGUMI
KAIGUMI-GROUP since1969

チャンネル登録
お願いします

建設業界・地域の面白い事を
発信するチャンネル

毎週金曜日18時に配信





Since 1991

山晃央園
湘南ひらつか七夕まつり

特定非営利活動法人
山晃央園
SANKOEN <https://sankooen.com>

お問い合わせ 0463-23-3264

経年美化になる住まい

自由設計注文住宅
リノベーション
リフォーム


YACHI KOUMUTEN

株式会社 谷地工務店
平塚市南豊田13-1
mail:yachi@yachikoumuten.com



公益社団法人 平塚法人会
「税に強い経営者が次世代を支える」

JR
JR東日本
横浜支社

平塚
理容組合

安心・安全な理容店
hriyou.starfree.jp/



湘南七夕の会

株式会社
古木ビル


[生活の道具]

有限会社 銅屋商店
〒254-0043 平塚市紅谷町 3-19
TEL 0463-21-0206

Kanachu

お客さまの
「かけがえのない時間(とき)」
と「ゆたかな暮らし」の実現に
貢献します。

神田交通
株式会社



Rotary
平塚ロータリークラブ
第2780地区

2022-2023 テーマ
「さあ 奉仕の心で 動き出そう！」



JR 広告は 

JR 東日本 指定広告代理店
有限会社 大宣
 E-mail info@daisen-ad.com

JR 広告 / 各種サイン / 七夕飾り製作



株式会社
湘南ウイル

電気設備工事請負
 平塚市代官町23番29号



東和電気
株式会社

TEL 0463-22-3366
 URL <http://www.towadenki.com>

おかげさまで大雄は
 創立50周年を迎えました



DAIYU 中原店 平塚市中原1-17-1
 追分店 TEL. 0463-33-8000

平塚市
電設協会

機械警備・防犯カメラは
 『トツケイ』にお任せください。



特別警備保障

〒254-0014 神奈川県平塚市四之宮2丁目14番62号 TEL.0463-22-8300

FM SHONAN
78.3 MHz
 NAPASA
 HIRATSUKA



「安心、安全、幸せ」な
 街づくりを目指して



湘南ケーブルネットワーク




湘南ジャーナル



Special Thanks



2012年撮影

1979年の七夕まつりから、40年以上にわたり湘南ひらつか織り姫（旧・ミス七夕）の衣装を作り続けてきたオートクチュール・ルナ代表取締役でデザイナーの三留千恵さんが2022年11月18日に天国へと旅立ちました。

三留さんは毎年、織り姫に合わせたデザインの衣装をオーダーメイドで作り、無償で提供してくれました。七夕まつり期間中はもとより、市内外でのPR活動や、公的行事に織り姫が出席する際は、三留さんの衣装を着るのが通例で、いつしかこの衣装が織り姫の正装、ユニフォームとなっていました。

3年ぶりに復活した第70回の開催で織り姫となった3人の衣装も、三留さんの手作りでした。これからは空の上からあたたかく、織姫と彦星とともに未来の七夕まつりと湘南ひらつか織り姫の活躍を見守ってくれることでしょう。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

おわりに

湘南ひらつか七夕まつりが70回の節目の開催を迎え、こうして記念誌を発行できたことを市民の皆さま、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

これまで、30周年、40周年、50周年と節目ごとに記念誌を発行してきました。ところが60周年の2010年は記念イベントこそ多数行われたものの、記念誌を作ることはありませんでした。しかし、本文中でも触れましたがこの20年こそがまつりにとっても激動の時代でした。

近年、学校の社会科や「総合的な学習の時間」などで地域のまつりについて学習することが多いようです。この記念誌が、子どもたちにとっても七夕まつりの歴史を振り返る一助になれば幸いです。

記念誌づくりを通して、多くの七夕まつりの歴史に改めて触れたことで、七夕まつりは平塚が世界に誇る宝の1つであると改めて確信しました。平塚で生まれ育った人が思い出す郷里の姿は、多くの人でにぎわう七夕まつりであってほしい、そんな願いを短冊にしたため、未来の七夕まつりへの思いとともにあとがきに代えさせていただきます。

湘南ひらつか七夕まつり実行委員会
70回記念誌編集担当一同

湘南ひらつか七夕まつり70回記念誌

発 行 湘南ひらつか七夕まつり実行委員会
発 行 日 令和5年3月
編 集 湘南ひらつか七夕まつり実行委員会 70回記念誌編集担当(株式会社湘南ジャーナル社・株式会社タウンニュース社・湘南ケーブルネットワーク株式会社・平塚市産業振興部商業観光課)
写真提供 一般社団法人平塚市観光協会(表紙ほか)
平塚市

